



1／保育証書を受け取り、小学校で楽しみにしていることを元気よく発表する園児（平山） 2／園での思い出とともにお別れの言葉を大きな声で発表する卒園児（平山） 3、4／関係者らで記念撮影（3平山、4こだま） 5／在園児全員での合唱（こだま） 6／先生との別れに涙がこぼれる園児（こだま）

市内2つの保育園が 惜しまれつつ閉園

子どもたちの成長を見守ってきた平山保育園とこだま保育園が3月31日、それぞれ

の歴史に幕を下ろしました。

平山保育園は昭和48年の9月に開園。一時は90人の園児が在籍し、約52年間で954人が集立っていきました。3月8日には最後の卒園式と閉園式を開催。卒園児4人が声を揃えて園での思い出を語り、成長した姿を披露しました。菅原志保子園長は「自然に恵まれ、地域との交流も多く、子どもたちはのびのびと育ちました。閉園は寂しいです」と思いを語りました。

こだま保育園は昭和47年1月の開園以来、53年間で423人の園児を送り出してきました。同園は3月20日に卒園式と閉園式を開催。在園児6人が大きな声で合唱を行い、園舎に別れを告げました。保護者会の本波恭子会長は「自分もこの園に通い、子どもたちも姉弟でお世話になりました。長いようであっという間だったと感じます」と園との関わりを振り返りました。

こだま保育園は昭和47年1月の開園以来、53年間で423人の園児を送り出してきました。同園は3月20日に卒園式と閉園式を開催。在園児6人が大きな声で合唱を行い、園舎に別れを告げました。保護者会の本波恭子会長は「自分もこの園に通い、子どもたちも姉弟でお世話になりました。長いようであっという間だったと感じます」と園との関わりを振り返りました。



飾られたひな人形の前でピース

ひな人形を作ったよ！

3月3日、侍浜保育園でひなまつり会が行われました。園児たちは、紙を折ったり切り貼りして作った手作りのひな人形を紹介。大小さまざまな手作りひな人形がひな壇とともに飾られ、会場を彩りました。

年長の菅原伊吹さんと大向莉緒さんは「紙を切って作った花やリボンが可愛くできました」とアピールしました。

三陸鉄道「お絵かき列車」市内園児が入賞

三陸鉄道「園児お絵かき列車」に寄せられた585点から、いなり保育園の大下み優さんが久慈市特別賞、幸町保育園の茂市葉さんが久慈市さんでつくん賞に輝きました。

2月25日には、幸町保育園で表彰式を開催し、遠藤市長と三陸鉄道久慈駅の畑田健司駅長が賞状と記念品を贈呈。園児たちは「さんてつのおた」に合わせたダンスを元気いっぱい披露しました。

茂市さんは「色がはみ出さないように塗るのを頑張り、上手に描けました。また三陸鉄道を描きたいです」と笑顔。大下さんは「列車の赤いところと花の色塗りを頑張りました。賞をもらうことができうれしいです」と喜びを語りました。



描いた絵を掲げる大下さん（左）と茂市さん

